

道路と道標

道標とは、道案内の標識である。

阿井には私の知る所で三つある。もちろん江戸時代のものである（実際には、四か所）。道あつての道標であるが、江戸時代において、阿井地内における主要な道は

①荒堀道（米原↓谷口↓川東↓荒堀）②奥湯谷道（川東↓雲崎↓奥湯谷）③川子原道（大森神社前↓井戸↓川子原）④大吉道（山根↓無木大吉）⑤高尾道（山根↓奥湯谷尻↓中田尻↓小阿井尻↓野間↓高尾）⑥荒堀道から分かれて↓長谷↓榎原↓備後に抜ける雲備を結ぶ重要街道（雲州街道）。さらに長谷から半谷↓福原↓吉田を結ぶ銀山への道等々が存在していた。それぞれの道を行き交う人々の道案内の役が道標で、主要な交叉点等に立てられ、要所要所には宿場もあった。（上阿井町・下阿井山根町）。

道標は何れも大きな自然石であり、字は、漢字や平かな、変体がなで刻まれている。

その一つは、下阿井山根より無木に向う下阿井大橋（旧新在家橋）の向う側に、「かわ下八加わち（河内）右はゆつば（温泉）、大やしろ（大社）



へ」左川上は、たかの山

（高野町）」と（写真右上）

また一つ、下阿井八幡・奥湯谷別れ（消防5部詰所向い）には、「右馬木、横田、伯州、左三成、三沢、大社」と（写真左上）

更に一つは、上阿井真地可部屋大橋

先旧道との別れには「右、たかの山、こんびら、川下、大やしろ、一ばたれんげ寺」（写真下）等があり、ただ単に左右案内だけでなく、川上は：川下は：等の案内ぶりも考えさせられる。

又神社やお寺の名をあげ案内してあるのは、旅人の性格も表わしている。

この標識がなぜ一人や二人では動かす事ができない大きな石に石工の手で文字が深く刻みこまれているのだろうか。物事や製作には意味があり、時代がある。これらからその時代がわかり、そして今が……更に将来が考えられる。

なお、八幡奥湯谷別れの道標は、元々置かれていた場所から移動してあり、標識に示された内容と位置関係がずれていることを承知しておいてほしい。

また、最後の写真は、上阿井町坂根坂下にある吉田別れを表示したものであり、昔の道はこんなところを通っていたのだと実感できる道標である。

